

駒澤大学 4-3 中京大学

SOUL OF KOMAZAWA
FORZA 駒澤 Vol. 44
 2002. 11. 21
 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1
 駒澤大学マスコミ研究所内「駒大スポーツ・サッカー班」
 Eメール forzakomazawa@hotmail.com
 TELFAX 03(3418)9556 発行人 内田浩嗣
 ベスト4!!!

28分の失点はオウンゴールだと認めた巻。しかし、2ゴールの活躍でチームを勝利に導いた



巻、2ゴール! 深井、2ゴール!

巻は「この日巻とともゴールをあげる活躍。この勇姿を国立で見たい」

ベスト4進出!

11月16日 13:15 駒沢陸上競技場
駒大 4(2-2) 3 中京大
 (関東第1代表) (東海第3代表)

得点者(アシスト)
 【駒】6分:巻誠一郎(PK)2
 【中】15分:池 承臣 2
 【駒】16分:深井正樹 2
 【中】28分:西 政治 1(朝倉吉彦 1)
 【駒】55分:深井正樹 3(巻誠一郎 2)
 【駒】79分:巻誠一郎 3(中田洋介 2)
 【中】89分:石館 明 1(福本文顕 1)

KOMAZAWA	CHUKYO
GK①新沼 泉(4)	GK⑩澤野 賢士(4)
DF④小林 亮(2)	DF③三宅隆典(4)
DF⑫河合雄字介(4)	DF④西 政治(4)
DF③松田大輔(4)	DF⑩松田 勉(4)
DF②角屋博文(4)	DF⑨福本文顕(4)
MF⑥中後雅喜(2)	MF⑤城山大輔(4)
MF⑦橋本早十(3)	(63分⑨塚本翔平(1))
(76分⑩増富真也(4))	MF⑫神原耕平(4)
MF⑧中田洋介(3)	(78分⑨鶴飼宏長(2))
MF⑩田中 信成(3)	MF⑦朝倉吉彦(3)
FW⑩深井正樹(4)	(81分③河波 明(4))
(88分⑩関 光博(2))	MF⑦楽山孝志(4)
FW⑨巻誠一郎(4)	FW⑨池 承臣(4)
S U B	FW⑭石館 明(4)
GK②牧野利昭(1)	S U B
DF⑤鈴木祐輔(2)	GK①海野 剛(1)
DF⑬桑原 靖(1)	DF③加納靖典(2)
MF⑨岩本哲也(2)	DF②伊藤圭佑(1)
FW⑬赤嶺真吾(1)	FW⑩伊藤 優(2)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	城山喜代次

警告(C)/退場(S)
 【駒】56分:橋本早十(C)
 【中】66分:三宅隆典(C)、77分:塚本翔平(C)
 [シュート]17:8[枠内シュート]11:6[決定機]13:7
 [GK]4:16[CK]11:5[PK]1:0[直接FK]16:24[間接FK]1:1
 [OS]1:1[主審]佐藤秀明[観衆]約400人
 ※上記データは全て左側の数字が駒澤、枠内シュート、決定機は本誌記者による記録です



この日も自慢の快速とスタミナで中京ディフェンスを翻弄した中田。アシストも記録

全国高校サッカー選手権大会の組み合わせが決定!
 12月30日に開幕する全国高校サッカー選手権大会へ出場が決まっている高校の選手で、来年の駒大への進学が決まっている選手は以下の5人。巻選手の国見高校と橋原選手の丸岡高校は2回戦で激突する!
 ★原一樹(千葉県代表・市立船橋高校)
 ★巻祐樹(長崎県代表・国見高校)
 ※駒大4年、巻誠一郎選手の実弟
 ★新川真之介(福岡県代表・東福岡高校)
 ★椿原敬也(福井県代表・丸岡高校)
 ★柳崎祥平(鹿児島県代表・鹿児島実業高校)
 ※なお、ほかの進学の決まっている選手は次号で詳しくお伝えします。

準決勝の対戦カード
 ★ベスト4は関東勢対決に! 駒大は国土大と対戦★
 11月21日(木) 西が丘サッカー場
 ●第一試合<16:00~>
東京学芸大学(関東第3代表) vs **筑波大学**(関東第2代表)
 ●第二試合<18:15~>
駒澤大学(関東第1代表) vs **国土館大学**(関東第4代表)

巻、深井の4ゴールで粘る中京大を撃破!
 昨年の王者、駒大と一昨年の王者、中京大との一戦は序盤から点の取り合いとなった。6分、深井が中京ディフェンダーにエリア内で倒され、PKを得ると巻がしっかりと決め、駒大が先制。しかし、「東海の駒大と言われているだけあって、シンプルなサッカーをやってきた」(松田)と言う様にこの日対戦した中京大は上背のある池にボールをまますてるといったシンプルなサッカーで駒大のゴールを脅かす。そして15分、駒大はディフェンスの隙を突きをつかれ池のゴールで中京大に同点とされてしまう。
 駒大は焦ることなく1分後にゴールをあげ勝ち越しに成功するが、粘る中京大は28分、CKから巻のオウンゴールを誘い(公式記録では中京大の西のゴールになっていいるが巻は「オウンゴールです」(巻)と試合後、語っている)、2-2とし、前半は同点のまま終了する。
 後半、運動量がガクッと落ちた中京大に対し、駒大は2トップが大爆発。55分に巻の絶妙なスルーパスに反応した深井が落ちていて決め勝ち越しに成功すると、79分には中田のセンターリングを巻が豪快に蹴りこみ試合を決定付ける。試合終了間際に1点を返されるものの駒大の勝負強さが際立った試合となった。
 「両サイドが機能してきた」(巻)「調子は上がっている」(深井)など攻撃陣については様々な好材料が見えた試合だった。しかし、守備陣に目を移すと、3試合連続無失点はあっさり破られ、今後に課題を残す結果となった。「最近では、前線の守備を怠っている感じがある」(松田)と言うように決して失点は守備陣だけの問題ではない。チームとしての守備、それを再確認することが失点の減少につながるのではないだろうか?
 次の相手は国土大。ここまで、どのタイトルを獲得時も立ちふさがった難敵。今回もなんとか勝利し、国立の舞台に立ちたいものだ。3冠達成まで